

るかどうか、という覚悟である。全国の実感を総動員して、「四国の覚悟」を示して

いきたい。

研究所だより

榎本 木綿

四国での協同集会もいよいよ間近に迫り、準備も佳境に入っています。先日、集会前の最後の実行委員会が開かれたのに併せ、集会参加呼びかけに皆で訪問活動を行い、その際に高松市役所各課へも伺いました。当日はちょうど生活保護費の受給日と重なり、生活保護課はたくさんの人たちが列をなし、溢れ返っていました。職員の方々も増員して対応している様子でしたが追いつかないようで、普段こうした場に関わらない者にとっては情報や知識ではない現実を目の前にし、やはり少なからず動揺を覚えました。この中には仕事をしたいと思いながらもどうしても叶わないでいる人がたくさんいるはずであり、どうにか生活を立て直したいという思いを摘んでしまわないような支援体制の確立が早急に必要だと実感しました。

そうした意味でも本誌今号の特集にある埼玉県で開始された「生活保護受給者チャレンジ支援事業」には大きな期待を寄せています。就労だけではなく生活全般を網羅した当事者に寄り添う支援体制はいままでのような縦割りの支援制度のあり方では不可能でしょう。今後はいかに市民、地域、行政がネットワーク化して支援体制を整えていくか、そこをつなげる役割の一つをワーカーズコープはどう果たしていくの

か、また当事者にとって、「働く」ということについて何が本当に必要であり、展望を創り上げていけるのか、ワーカーズコープの事業、運動の面からもさまざまに問われるまさに挑戦だと思っています。

挑戦つながりというには少々話が飛びますが、飯能にある「野口種苗研究所」の野口勲さんを訪ねました。知る人ぞ知る「野口のたね」の代表です。野口さんは手塚治虫担当の虫プロ編集者というキャリアを持ち、その後、家業の種屋を継がれたそうで、農家が使う野菜の種が「F1種(1代目のみ収量や生育が早まるよう交配された種)」が主流になりつつあるなかで、何世代にも渡り地域の農家が自家採種で伝えてきた「固定種」を次世代に残そうと奮闘されています。

F1種は「雄性不稔(葯や雄しべがない突然変異の株)」を利用しつくられており、人間を含めそれがもつ他の生物への影響(無精子症や不妊症など)など、ここではその論議は避けますが、まだまだ解明されてはいません。

また、従来自家採種は株が他品種と交配しない隔離された地理的条件にある中山間地域を中心に、林業の副業のひとつとなされてきましたが、林業の衰退とともに過疎高齢化が一気に進み、国内での採種が

たいへん難しい状況にあるそうです。日本の食料自給率や安定供給の点から、野口さんもF1種を全面否定されてはいませんが、お話を伺いながら日々自分や家族が口にし、細胞組織を作る食物がどのようなものであるのかをもう少し知りたいなと思われましたし、なにより固定種からつくられた野菜はとても美味しいそうです。

この問題は消費者や生産者、流通業者など皆が同時に考えなくてはならない、次世

代に多様性のある未来を引き継ぎたいと、野口さんは仰います。種の問題はまだまだ私たちの日常では見えにくいですが、さまざまな問題につながっているということを知る機会となりました。こうした分野での活躍もまた、ひとつの「新しい公共」の担い手によるものではないかなと思われました。

四国での新たな出会いも今から楽しみです。ご参加できない方は2011年2月号(予定)での本誌特集をお楽しみに。

新入会員(2010.10.1～10.31)

個人会員 5名

大内 文雄(しらたかノラの会代表)

住吉 徹 (関心事:地域再生と働き方、
リスクマネジメント分野)

三好 直子(所属:JICA 関心事:環境
教育)

野村 卓(鹿児島大学産学官連携推進機

構 関心事:社会教育、環境
教育、食育・食農教育)

鈴木 雄一(連合埼玉顧問 関心事:林
業の再生と就労の創出)

団体会員 1団体

21世紀型生協研究機構(パルシステム生
活協同組合連合会)

研究所活動日誌

10/02(土) 協同総研研究会 大熊孝氏『日本
の川文化と水辺のまちづくり』

10/03(日) 香川プレ集会(田嶋)／労協連・食
農環境プロジェクト会議(榎本、
青木)

10/04(月) 労協連「新ビジョン2025づくり」
委員会(田嶋)

10/05(火) 協同総研事務局員面接／NPO土佐
の森・救援隊 中嶋健造氏訪問(榎本)

10/06(水) 松下桂子氏(パルシステム生協21

世紀型生協研究機構)来所

10/07-08(木-金) 富田氏(エルチャレンジ代
表)、西岡氏(豊中市)、法橋氏(近畿
労金)、福原宏幸氏(大阪市大)、櫻
井氏(大阪自治研)訪問(島田、田嶋)

10/07(木) NPOほっとポット訪問(埼玉:青木)

10/08(金) 青砥恭氏(彩の国子ども・若者支
援ネットワーク)訪問(埼玉:青木)

10/12(火) 大高研道氏(聖学院大学、協同総
研理事)来所